Vol.2020-MUS-126 No.3
2020/2/17

第3回音楽情報科学国際会議既発表セッション

齋藤 大輔[1,a)]　飯野なみ[2,b)]

概要：国際会議で先行して発表したが，日本の国内学会・研究会では未発表の研究について著者自身がポスター形式で紹介する．今回は 2018 年 1 月 1 日から 2020 年 2 月 17 日までの間に国際会議で発表された内容について紹介する．

はじめに

本稿では 2018 年 1 月 1 日から 2020 年 2 月 17 日までに開催された音楽情報科学に関連する国際会議のうち、国内未発表の研究を紹介する．国際会議 JIST（Joint International Semantic Technology Conference）は，オントロジー，知識グラフ，Linked Data などのセマンティック技術に関する国際会議であり，今年は中国の杭州（Hanzhou）で開催された．投稿論文は LNCS スタイルとなっている．

（齋藤 大輔）

1.

An Ontology-based Development of Activity Knowledge and System Design, Nami Iino, Takuichi Nishimura, Hideaki Takeda, The 9th Joint International Semantic Technology Conference (JIST2019.)

本稿では，専門分野における領域オントロジーに基づいた活動知識の構築とそれを支援するために開発したシステムについて述べる．人間の活動を理解するためには，各領域の知識を明示的に記述することが重要である．しかし，効率的に知識を構築するための方法やプロセスの確立，人間と機械の可読性の向上，構築後の定期的な改良といった多くの課題がある．そこで本研究では，技術的なスキルを必要とする分野として楽器演奏領域を取り上げ，オントロジーに基づく活動知識の構築を行い，その効果を調査した．さらに，活動知識の構築を支援するシステムを設計・開発し，語彙統制における有用性を確認した．（紹介者: 飯野なみ）

1 東京大学
2 産業技術総合研究所
a) dsk_saito@gavo.t.u-tokyo.ac.jp
b) nami-iino@aist.go.jp

© 2020 Information Processing Society of Japan